

【呉市】校務D X計画

1 現状

これまで本市では、汎用クラウドプラットフォーム、統合型校務支援システム、授業支援クラウドツール、A I型デジタルドリル、保護者連絡システムを導入し、校務管理・学籍管理・成績管理や児童生徒・保護者・教職員の情報共有をデジタル化することができる環境を整えてきた。

2 成果と課題

質問 1 5	全くしていない	一部 している (半分)	一部 している (半分以上)	完全にペー パーレス化 している
職員会議等の資料をクラウド上で共有ペーパーレス化していますか。	1 . 9 %	5 5 . 8 %	4 0 . 4 %	1 . 9 %
質問 1 8	取り入れていない		取り入れている	
教職員間の情報共有や連絡にクラウドサービスを取り入れていますか。	4 2 . 3 %		5 7 . 7 %	
質問 2 9	使用している		使用していない	
「F A Xの利用が例外的に必要と考えられる業務」以外の日常の業務にF A Xを使用していますか。	8 8 . 5 %		1 1 . 5 %	

GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト（速報値）より一部改変・抜粋
（令和6年9月実施）

所管のほとんどの学校では職員会議等でのペーパーレス化やクラウドツールの使用等、校務の効率化が進められている。

一方で、統合型校務支援システム等の性能を十分に使いこなすことができず、校務の効率化が進んでいないケースも見られるなど、学校間・教職員間でI C T活用状況の格差が拡大している。また、教育情報セキュリティポリシーについては自治体ポリシーを準用する程度に留まっており、教職員がクラウド環境を十分に活用するためポリシーとなっていない現状がある。

さらに、ほとんどの学校が未だに業務上F A Xを使用しており、すべての学校で保護者・外部とのやりとりで押印・署名が必要な書類がある状況となっている。

3 今後に向けて

本市では、令和7年1月から呉市I C T教育推進アドバイザー（以下、「アドバイザー」と言う。）を設置した。引き続き、各学校の実態把握に努めるとともに、アドバイザーの指導・助言を受け、校務D Xを進めていく。とりわけ、I C T活用状況の格差を是正するために、統合型校務支援

システム等に係る研修を充実させるとともに、校務D Xが進んでいる好事例を積極的に広めることで、一層の校務の効率化を図る。

また、A P I 連携等によるデータ連係を進め、各種システムのデータを一元化することのできるダッシュボードを構築するなど、教育データを活用しやすい環境整備に向け、研究していく。そのために、呉市独自の教育情報セキュリティポリシーを策定し、学校現場における校務処理でのクラウドサービスの活用が図れるようにしていく。